

GM 鶴牧-3 環の会

第 78 回クラシックを楽しむ会

2023 年 8 月 13 日(日)18:00～(1 時間 47 分)

タイトル：**喜歌劇「ラ・ペリコール」(オッフエンバック)**

会場等：シャンゼリゼ劇場(フランス・パリ)

2022 年 11 月 23、24 日

楽団等：レ・ミュージシャン・デュ・ルーヴル

合唱：ボルドー国立歌劇場合唱団

指揮：マルク・ミンコフスキ

演出・衣装：ロラン・ペリー

出演：ペリコール(美しい流しの歌手):

マリーナ・ヴィオッティ

ピキーヨ(ペリコールの恋人):

スタニスラス・ド・バルベイラック

ドン・アンドレス(スペイン副王):

ロラン・ナウリ

ほか



第 1 幕 空腹で寝込んでいたペリコールに変装した副王が一目惚れ

あらすじ

舞台は南米ペルーのリマ。ペリコールとピキーヨは流しの歌手コンビで恋人同士。お祭りの日に歌うがお金は集まらずペリコールは空腹で寝込んでしまう。ピキーヨは稼ぎに出かける。

お忍びでやってきた好色のスペイン副王が美人のペリコールを見て一目惚れ。ペリコールは貧乏に耐えかね、ピキーヨに別れの手紙を書いて総督の宮殿についていく。ピキーヨが戻ってきてペリコールの手紙を読み、絶望して自殺を図る。

シャンゼリゼ劇場

フランスのパリ 8 区西南端にある劇場。アール・デコ様式の最初期の建築とされる。名前はシャンゼリゼだが、シャンゼリゼ通り沿いではなくモンテーニュ通り沿いにある。この劇場でストラヴィンスキーのバレエ「春の祭典」の初演が行われたが、あまりの前衛性が大スキャンダルを巻き起こし、音楽史上有名な事件となった。



シャンゼリゼ劇場。モンテーニュ通りの先にエッフェル塔

第 79 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル:**バレエ「夏の夜の夢」(メンデルスゾーン)**

9 月 10 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

パリ・オペラ座バステューユ 2017 年。エトワール 6 人の豪華キャスト! 指揮:サイモン・ヒューイット、演出:ジョージ・バランシン。

シェクスピアの戯曲にメンデルスゾーンが劇付随音楽を作曲。**結婚行進曲**だけでなく聞き覚えのある美しい音楽が次々に演奏される。

あらすじ

【時と場所】

スペインが支配していた植民地時代の南米ペルーのリマ

【登場人物】

ペリコール（流しの歌手） 美人だけど抜け目なくて気の強そう

ピキーヨ（ペリコールの恋人） ひ弱な感じだがキレるとかなり危ない

ドン・アンドレス（ペルー副王で好色男） お忍びで町を歩いたり牢屋の看守になったり

パナテラス伯爵（官房長官）

ドン・ペドロ（リマの総督）

三人の従姉妹、その他

【第1幕】 リマの街中

リマの街中の広場では、総督ドン・アンドレス誕生日のお祝いで大騒ぎしている。三人従姉妹も「私たちはお客様に迅速なサービスを致します」と歌い場を盛り上げる。変装したドン・アンドレスも一緒に歌うが、周りの皆にはすっかり正体がバレている。

恋人同士の歌手ペリコールとピキーヨも「**スペイン男とインディオ娘**」を歌うが、お金は思うように集まらない。ペリコールは空腹の余りその場で座り込んで眠り込むピキーヨは一人で稼ごうとする。ドン・アンドレスが通りかかり眠り込んだペリコールの美しさに心を奪われ「宮殿に来ないか」と誘う。ペリコールは贅沢な暮らしに目が眩み、ピキーヨに別れの手紙「**いとしい人よ(手紙の歌)**」を書き、総督についていく。ペリコールは酔っ払って上機嫌で「**ほろ酔いの歌**」を歌う。

突然の手紙に絶望して自殺を図ったピキーヨの元に、パナテラス伯爵がやってきて「総督の妾と形だけの結婚をして何不自由ない生活をしてみないか」と持ち掛けて酔わせ、妾となる花嫁に引き合わせて勝手に結婚式を挙げる。ペリコールは花婿を見てピキーヨであることに気づくが、酔っ払っているピキーヨは、花嫁がペリコールと気付かず「私には愛する人がいます！」と言う。

【第2幕】 宮殿

酔いが醒めたピキーヨはなぜ宮殿にいるのか分かっていない。「お金のために総督の妾と結婚するとは」と皆から非難され「そんな馬鹿げたことには付き合いきれない！」と宮殿を出ていこうとする。儀式が始まり妾の姿を見てピキーヨは驚く。自分が結婚した総督の妾とは自分を裏切ったペリコール。ペリコールは「ああ、男って何て馬鹿なんでしょう！」と開き直るので、怒ったピキーヨは「こんな女くれてやる！」とペリコールを突き飛ばす。激怒したドン・アンドレスはピキーヨを拘束する。

【第3幕】

第1場 牢獄

ピキーヨが牢獄の独房でふてくされて寝ていると、ペリコールがやってきて「やっぱり貴方が好きなの！」と許しを請うと、ピキーヨもすぐにペリコールへの愛情を思い出して彼女を許し2人は抱きあう。看守に変装していた総督は怒って2人を牢に。脱獄しようと、ペリコールが総督に「貴方を敬愛しています…」と歌い脱獄に成功。

第2場 リマ市街の広場

総督は2人を捕まえようと必死。苛立つ総督の元に、歌手をしていた時の衣装を着たピキーヨとペリコールが現れて、ローマ帝国初代皇帝アウグストゥスを讃えた歌を歌い、総督の怒りを鎮めることに成功。総督は2人を許す。

出演



マリーナ・ヴィオッティ(メゾソプラノ)

スイス・ローザンヌ生まれのフランス系スイス人のメゾソプラノ歌手。ジャズ、ゴスペル、ヘヴィメタに親しみ大学で哲学と文学を専攻し、卒業後本格的に声楽を学んだ変わり種。オペラ、宗教曲のほか、ジャンルにとらわれぬ活動を繰り返している。父親の指揮者**マルチェロ・ヴィオッティ**はヴェネツィアのフェニーチェ劇場の音楽監督などを歴任した。



スタニスラス・ド・バルベイラック(テノール)

フランスのテノール歌手。パリ・オペラ座、ロイヤル・オペラ、サンフランシスコ・オペラなどに出演している。



マルク・ミンコフスキ(指揮)

フランス・パリ生まれのバロックファゴット奏者・指揮者。1982年にグルノーブル・ルーヴル宮音楽隊 **レ・ミュージシャン・デュ・ルーヴル** を設立。ザルツブルク・モーツァルト週間の芸術監督、ボルドー国立歌劇場総監督を務める。2018年9月、オーケストラ・アンサンブル金沢芸術監督に就任。



ロラン・ペリー(演出)

フランス出身のオペラおよび演劇の演出家。衣装やセットのデザインも手がけ、コミカルで風刺的ながら詩情に溢れ想像力豊かな作風が特徴である。特にフランスのオペラ、オペレッタの演出で名作を多く制作。指揮者のマルク・ミンコフスキとコンビでのオフエンバックのオペレッタなど、数多くの演出作品がDVDになっている。

原作

小説「カルメン」などで有名な**プロスペル・メリメ**の「サン・サクラメントの馬車」が原作。ペルーがスペインの**ペルー副王領**だった18世紀の大女優で歌姫の**ミカエラ・ビジェガス**がモデル。

リブレット(台本)

ビゼーの「カルメン」のリブレットで有名な**アンリ・メイヤック**と**リュドヴィク・アレヴィ**のコンビは、オッフェンバックの主要作品のリブレットを手掛けている。

作品の解説から

第1幕ペリコールの手紙の内容は**アベ・プレヴォー**の「**マノン・レスコー**」から借用されている(ダヴィット・リッサン)。第2幕の貴族たちの短い合唱の**パッセージ**は**ドニゼッティ**の「**ラ・ファヴォリート**」を借用している。ドニゼッティも宮廷の貴族たちが王様お気に入りの愛妾に貢がせて、それに同意する夫を公然と非難している(ダヴィット・リッサン)。

歴史的背景

ペルー副王領

副王領はスペイン王国が16世紀以降、海外領土とした植民地の統治のために創設し、この広大な領域の統治をスペイン王の代理人の**副王**に任せ、植民地ではなく王国の州または県に準ずる主体として本土と同じ権利を与えた。**ペルー副王領**(1542年 - 1824年)*1は4副王領の一つで、ペルー副王領はスペイン領アメリカで最も価値がある領地と考えられ、ヨーロッパに大量に出荷される銀は、先住民の強制労働の搾取によりリマの鉱山事業者や豪商の社会が繁栄した。スペイン本国から派遣された役人(貴族階級)と、人口の1割に満たない**クリオーリョ**(新大陸生まれのスペイン人)*2が、大多数を占める先住民**インディオ***3の土地を奪って奴隷状態にし、黒人奴隷とともに過酷に搾取していたため、たびたび反乱が起きた。

*1 **ペルー副王領**は、当初、現在のベネズエラの海岸部を除くスペイン領南アメリカのすべてを含んでいた。1776年に分割されて現在のペルーが領域になって衰退した。

*2 英語では**クレオール**だが、**アメリカ合衆国**ではフランス領ルイジアナ時代の(黒人奴隷を含む)移住者を先祖に持つ全ての人種および異人種間の混血の人々、またはこれらの人々の独自の文化と**クレオール料理**を指す。

*3 **アメリカ先住民**のことを、メキシコ以北の諸民族を**インディアン**、ラテンアメリカの諸民族を**インディオ**と呼び分けることが多い。

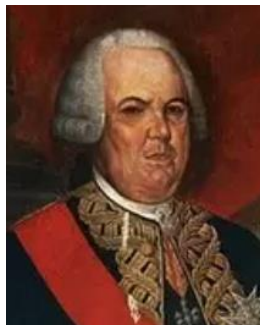
実在したモデル

ペリコール(**ペリチョリ**)の本名は**ミカエラ・ビジェガス**。1748年ペルーのリマ生まれの平民**クリオーリョ**で、ラテンアメリカ最古の**コリセオ・デ・コメディ**劇場の舞台女優兼コメディアン。

副王**マヌエル・デ・アマト**は1707年スペイン・バルセロナ生まれで父は侯爵、母は侯爵の娘。軍人として戦績を積み元帥。スペイン王の代理、副王として在任したのは1761年から1776年で、道路を舗装し公園を造設、街灯を設けるなど公共土木事業を推進。アマトは60代半ばになって44歳年下の**ミカエラ**に恋をし男の子が生まれた。この子は、後に1821年のペルー独立宣言の署名人になっている。



ペリチョリことミカエラ



副王アマト(1773)